

平成27年

季刊

秋季号

Vol.55

亜東



留学生一行国会見学



一般社団法人亜東親善協会

The East Asian Friendship Association

一般社団法人亜東親善協会の概要

名称 一般社団法人亜東親善協会

(英文名 The East Asian Friendship Association)

事務所 東京都千代田区平河町二一七―五 砂防会館四階

(必要に応じ支部を設ける)

目的 会員相互の親睦並びに我が国とアジア諸国との

経済、文化の提携、交流を通じ、友好親善の増進を図る。

事業

① 我が国とアジア地域諸国との政治、経済、文化に関する調査研究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出版

② 我が国とアジア地域諸国との文化、芸術の相互の紹介

③ 我が国とアジア地域諸国との経済協力の推進に必要な情報の収集及び幹旋

④ 我が国に在住するアジア地域諸国民の生活相談

⑤ アジア地域諸国からの在日留学生にたいする進学の幹旋

⑥ その他本会の目的を達成するために必要な事業

亜東親善協会の変遷

社団法人亜東親善協会は、民主主義と自由経済を信条とするアジア人同志の交流を深める目的で一九四九年 東京に設立された『華南倶楽部』が発祥です。第二次世界大戦後の激動の時代でしたが、会員はひたすらアジアの平和と繁栄を希求し、友愛と信義を基調とした国際関係の樹立に努力を続けて参りました。その結果、この趣旨に賛同する有識者が次第に増加し、活発な活動とともに組織拡大の一途を辿りましたが、一九七二年の日中共同声明は、アジアの政治情勢のみならず、在日アジア人の日常にも大きな変化をもたらしました。

その前年即ち一九七一年、千葉三郎先生(衆議院議員)は、倶楽部を強化発展させる必要を痛感し、岸信介先生、福田赳夫先生、灘尾弘吉先生らと諮り、留日華僑有志の方々が協力され、自ら発起人となり同年五月二十九日外務省認可『社団法人亜東親善協会』を設立致しました。

千葉先生の引退後、原文兵衛先生が参議院議長の要職のまま会長に就任され、その後、永年衆議院で活躍された藤尾正行先生が会長を引き継がれ、二一世紀の幕開けとともに玉澤徳一郎先生が会長を務められました。

日本を含むアジア諸国は、世界の経済に大きな影響を与える程に成長しました。かかる情勢の中、二〇一二年五月、元内閣総理大臣安倍晋三先生を会長にお迎え致しました。同年一月安倍政権が発足、会長の内閣総理大臣復帰に伴い退任されました。

二〇一三年二月、安倍会長の意を受け、会長代行・大江康弘参議院議員が会長を引き継がれ就任されました。現在、領土問題等の紛争、北朝鮮の核問題、発展に伴う水・エネルギー環境問題なども山積しております。

アジアの繁栄と平和に貢献するために、本協会員一同、役員陣容を強化し、新会長のもと、叡智を結集し努力を続けております。

季刊「亜東」平成二七年 秋季号・目次

一般社団法人亜東親善協会・概要・変遷	二頁
目次・協会役員名簿	三頁
会長あいさつと報告	四頁
台湾との教育的交流	七頁
溝畑 宏氏の談話	九頁
「亜東親善協会」が台湾からの留学生と懇談会開催	一一頁
最近の日台関係と台湾情勢	一二頁
事務所だより	一五頁

平成27年5月14日現在

一般社団法人亜東親善協会役員名簿

名誉会長（理事以外）	1名	玉澤徳一郎							
参 与（理事以外）	1名	橋本 靖男							
会 長（代表理事）	1名	大江 康弘							
副 会 長（理 事）	4名	張 建国	張 碧華						
		山本 順三	千葉 健司						
専務理事	1名	崎谷 秀彦							
業務執行理事	4名	赤松 則宏							
〃		藤山 雅康							
〃		池本 好伸							
〃		笹岡 恭亮							
理 事	17名								
小松 省二	仲谷 俊郎	新井 秀子	南部 晴彦	益山 茂	松永理恵子				
多 忠和	三浦 信行	並木 正芳	伊野 雅晴	柴田 徳文	山口 裕志				
森 康郎	矢野 哲朗	鶴保 庸介	永島 剛士	小山 博史					
監 事	2名	李 ハロルド	鈴木 慶一						
事 務 局		崎谷 秀彦							
		李 孔曉							

一般社団法人 亜東親善協会

会長あいさつと報告

会長 大江 康弘

みなさん、お元気ですか。

いつもご協力いただきありがとうございます。

この秋号が皆さまに届く頃には双十節も終わっていると思います。

あらためて中華民国一〇四年国慶節、心よりお祝い申し上げます。

中華民国は限られた国際環境、国際空間の中にあっても、着実に民主国家として力強く歩んでいる姿は嬉しく頼もしい限りです。

我国も変わりゆく国際情勢に対応し国民をしっかりと守り、平和と安全を確実なものにしていくために安倍総理は長い間の懸案だった安保法案の成立を果たしました。

今の国柄にあった国際貢献がこれで又一步前進し、多くの



安達前会長

国から理解と賛同をいただけることを確信しています。

ところで、今回の法案審議で不思議に思ったのは「民意」というとらえ方です。

我々の日常生活の中で物事に対して「賛成」「反対」と二つの相反する意見が存在するのは当然です。又、それを大衆

の前でしっかりと双方とも主張できる環境こそ、大切であり自由主義国、民主国家の大きな証であると思います。

世界ではその「証」さえ否定する国も多く我國の隣にも北朝鮮という無法国家がありますが、国会の前で連日デモを繰り返す「法案反対」を叫ぶ若者も定められたルールのなかでは許される行為であります。

しかし、わずか一万人〜二万人弱の人々の声が果たして一億二七〇〇万人の国民を代表した「民意の声」でしょうか?! 一つの意志を代表した声であっても大多数を代表した声で



大江会長

はありません。

最終的な「民意を代表する結果」は国民が貴重な一票を投じて選んだ国会議員の採決によって決定されるのであって、これが我国の民主主義のルール、世界の民主国家の制度です。そのような手続きを経て成立した安保法案ですが、なかなか国民には理解してもらいにくい中身なので、しっかりと説明と理解を求めていく努力はしていくべきでしょう。

さて今回は八月に石川県金沢市で開催された「日台交流サミット in 金沢」を紹介します。



金沢市議会、日台友好議員連盟の安達前会長、役員の皆さんが約一年余りをかけて全国の地方議会に設立された日台友好議員連盟のメンバーに協力を求めて開催までこぎつけました。

並々ならぬ苦勞と努力の賜物であったと心より敬意と感謝を申し上げます。

私のところにも安達

会長がお見えになりお話をいただいたのも一年以上も前でありました。

今回、多くの地方議会の代表が参加され、又、台湾からも多数の来賓が来日され大会に花をそえたのも、「やっぱり、皆さん中華民国台湾が日本にとって大切な国である。」という共通の認識があればこそであります。当日参加させていただき多くの同志や仲間の皆さんとお会いし、その意を強くした次第です。

安達会長はじめ関係者のみなさんのご尽力にあらためて感謝と御礼を申し上げます。

来年は私のふるさと「和歌山県で！」という方向が決まっているようですので、又、全力で仲間や先輩の皆さんと一丸となって、せっかくひいていたいたルールを更に延ばしていけるように頑張りたいと思っています。



安達会長と和歌山県議団と

引き続き、皆さんのご協力を心よりお願い申し上げる次第です。

又、もう一つ報告があります。

八月、私共の協会が後援した軽井沢国際合唱フェスティバルに行ってきました。

もう今年で一年目ということですが、世界的に有名な指揮者の松下耕先生が続けてこられた音楽祭で、毎年台湾からも参加があります。

今年は高尾と台北からの二団体が参加されていました。又、翌日には埼玉県川口市で高尾室内合唱団のリサイタルがあり、張建国副会長、赤松理事と共に参加してきました。

あらためて、民間の皆さんの地道な交流、又、特に文化、芸術、スポーツ等を通してのつながりは凄い絆を生み出してくれるという事をあらためて感じた



次第です。

それぞれが、それぞれのつながりでしっかりと中華民国台湾とつながっていく事で、ゆるぎない二国関係が維持され深まっていくな事を感じた今年の夏でした。



台湾との教育的交流

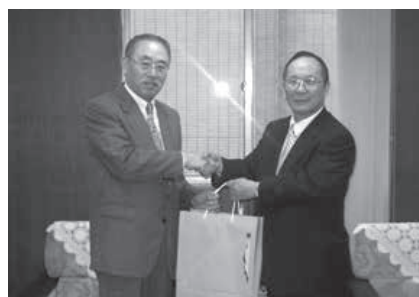
亜東親善協会理事 多 おの ただかす 忠和

この度、この季刊「亜東」に、私の拙い経験ではありますが、台湾との交流を掲載していただくことになりました。

まずは、簡単に自己紹介させていただきますと、私は、「学校法人電子学園」の理事長を務めており、「日本電子専門学校」という専門学校を経営しております。

日本電子専門学校は、電子・電気、IT分野のハード及びソフトウェアやコンピュータグラフィック（以下CG）、ゲーム、アニメなどのクリエイターを育成しており、現在約二三〇〇名が在籍しております。卒業生は、昭和二六年創立以来、約一二万人を輩出しており、台湾からの留学生も卒業生が四〇〇名を超え、現在も三〇名が在籍しております。

さて、紹介はこの程度にしまして、私が台湾と関わりを持つようになったのは、一九九八年と一九九九年に、専門学校野球連盟の日本代表チーム団長として、台湾の大学生や高校生との親善試合を行うため、学生を率いて訪台したのがきっかけでした。その際、高雄では、当時高雄県長を務めておられた余政憲先生と親交を結ぶことができ、また大変お世話になりました。その時の台湾の印象があまりに強く、台湾との関係を、単に留学生を受け入れるということだけでなく、教育的交流を通してもっと深いものになりたいと考えるに至りました。



郭明山先生と

教組組長であった陳燕南先生にご相談させていただき、亜東関係協会を表敬訪問することから台湾での活動を始めました。当時の秘書長は、郭明山先生が務めておられ、それから訪台のたびに訪問させていただくうち、文教関連や教育部の皆様との交流も生まれ、ようやく台湾の大学や高等学校との繋がりができてきました。

そして、台湾では、日本のアニメ、CG、ゲームが大変人気があることを聞き、台湾の若者達にこの分野を広く知らしめることを目的として、二〇〇四年に「第一回アニメ、CG、ゲーム分野学生作品展」を淡江大学・台北校舎をお借りして開催しました。当日は、



黄輝慶先生

しかしながら、当時は、大学では姉妹校提携などの交流がなされておりましたが、専門学校については、台湾国内ではまだまだ高等教育機関としての評価が定まっておらず、なかなか糸口がつかめない状況でした。そこで、二〇〇一年に台北駐日経済文化代表處に赴き、当時の文

来賓として黄輝慶文教組組長（当時）にもご参加いただき、大変有意義なイベントであったとの評価をいただきました。

これを機に、その後も黄先生のご尽力とご支援により、第二回を二〇〇六年（会場：天成大飯店）、第三回を二〇〇七年（会場：誠品書店信義店）に台北にて開催しました。

特に二〇〇七年のイベントについては、二〇〇六年のイベント終了時に亜東関係協会・羅坤燦秘書長（当時）より、二〇〇七年の台日文化観光交流年を記念した教育的イベントの開催を依頼されたため、地元の大学とともに、約一年間の周到な準備期間を経、**「Digital Collaboration」**アニメ、CG、ゲームフェアとして大々的に開催し、高校生、大学生を中心に、二日間で来場者一六〇〇名を動員することができました。

これらのイベントを通して、多くの高校や大学、台湾教育部、亜東関係協会、交流協会、その他多くの関係団体の皆様と



2007年のイベント「Digital Collaboration」アニメ、CG、ゲームフェア

交流を結ぶことができたことが大きな収穫だったと思っています。このイベントの後、二〇〇八年、二〇〇九年には、交流協会からの依頼により、同協会が招待した台湾高校生に対し、アニメ、CG、ゲーム分野の体験学習を行うなど、年を追って台湾との交流を深めて参りました。

二〇一一年からは、新竹私立光復高級中学、桃園県天主教振聲高級中学、台南私立光華女子中学、淡水商工高級職業学校など本校と関係の深い高校の学校内において、本校校長を筆頭に現場の教員が校内に機材を持ち込み、アニメ、CG、ゲーム関連の講習会を毎年実施しています。

私は、仕事で多くの国を訪問しましたが、台湾ほど日本と合う国はないと思っています。また、台湾からの留学生も、数はそれほど多くはありませんが、皆大変努力家で優秀な学生ばかりです。

今後共、微力ながら、教育機関の長として、また亜東親善協会の理事として、日本と台湾の発展に寄与すべく活動して参る所存でおりますので、どうかよろしくお願いいたします。



台湾高校内での講習会にて

溝畑 宏氏みぞはた ひろしの談話

公益財団法人大阪観光局 理事長

【略 歴】



生年月日 昭和三五年八月七日
京都府出身

昭和六〇年三月 東京大学法学部卒業

昭和六〇年四月 自治省入省

平成一一年五月 自治省行政局行政体制整備室課長補佐・理事官

平成一四年四月 大分県企画文化部長

平成一六年八月 株式会社大分フットボールクラブ 代表取締役

平成二二年一月 国土交通省観光庁 長官

平成二四年五月 内閣官房参与・大阪府特別顧問・京都府参与

平成二七年四月 公益財団法人大阪観光局 理事長

現在私の執務室からは、高級ブランド店が軒を連ねる大阪のメインストリート・御堂筋を行きかう、国内外からの多くの観光客・買物客を見ることが出来ます。英語、北京語、広東語、韓国語、タイ語など、話す言葉は様々でも、多くの訪日外国人のお客様が一樣に大阪を満喫し、笑顔いっぱいであつた姿を目にすると、来ていただいたお客様への感謝の気持ち、それだけの魅力を持つ我が国への誇らしさ、このような交流が自然に行われる今日の平和の尊さを思い、改めて観

光の持つ力の大きさを感じさせられます。

私・溝畑宏は、本年四月から、公益財団法人大阪観光局の理事長兼局長を拝命し、観光客誘致の仕事に取り組んでいます。二〇一〇年一月から二〇一二年三月にかけても、観光庁長官として国全体の観光を取り仕切る立場にりましたが、観光立国・日本を真の意味で実現するには、首都圏と並ぶ日本の両輪たるべき関西が、観光の面でも力を発揮し、大阪がその中心として、自らの魅力を磨くとともに関西全体を引っ張っていかねばならないと考え、身を投じることを決めました。

就任後は、大阪、あるいは国の観光関係者との面会、懇談を重ね、息つく間もありませんでしたが、八月下旬に初めて海外、それも台湾への出張の機会がございました。台湾には観光庁長官在任中の思い出がたくさん詰まっています。当時台湾の交通部観光局長（女性）お名前を要確認が非常に熱心に相互交流に取り組まれ、今日の日台交流の礎を作られました。その後発生した東日本大震災では、台湾の皆様から人的、物的、経済的な多大なる支援を頂戴したのは皆様ご存知の通りです。さらに原発事故の風評被害が広がる中で、いち早く日本へ観光客を送ってくれた旅行会社、あるいは風評を払拭する情報を発信してくれたメディア、フライトを復活させてくれた航空会社など、台湾の皆様は私たちを精神的にも実務的にも大いに支えてくださいました。それがその後のオープンスカイ政策につながり、日台間の交流は飛躍的に拡大する

ことになります。当然のことながら、これらも全て、大江会長をはじめとする亜東親善協会の皆様が日頃から台湾の皆様との交流を重ねてこられた結果であることは論を待ちません。

私自身も、当時は観光庁長官として様々な政治的配慮を求められる立場で、台湾を訪問することには大きな制約がありました。それでもぜひ台湾の皆様にお会いし御礼申し上げたいという強い思いから、日帰り訪台を敢行したことが懐かしく思い出されます。

そして今回、念願叶い二泊三日の行程で、大江会長のご仲介により台北では亜東関係協会、そして交通部観光局の幹部の皆様と懇談し、震災当時のご厚情への感謝の気持ちを申し伝えるとともに、相互の率直な意見交換を通じて問題意識を共有するなど、大阪と台湾の絆をさらに強めることができました。私の積年の願いを実現させた、大江会長のお力に改めて驚かされました。

一〇月二八日には、古都・台南から日本への初の直行便が、大阪に向けて就航いたします。この新規就航にあたっては、将来の総統候補とも目される、台南市の頼清徳市長が大いに尽力されたと伺っています。台南空港にとっても初の日本路線であり、これで大阪は、日本の都市で唯一、台北（桃園）、高雄、台中、台南の台湾四大都市と全て直行便と結ばれることとなります。大阪をお選びくださった感謝の意も込めて、就航当日は関西国際空港で私自身が、頼市長をお迎えしたい

と考えております。

最近では、文化の面でも例えば「五月天 (Mayday)」や「宇宙人 (Cosmos People)」「STAYCOOL」など台湾のバンドが日本での公演活動を行う一方、日本の俳優が出演して大ヒットした昨年の台湾映画「KANO」のような日本から台湾へという動きも引き続き盛んで、相互の関係が一層深まりつつあります。観光が深度化して文化を求め、文化が観光のテーマとなる時代になってきた、とも言えると思います。大阪観光局としても今後芸能やスポーツなどを含めた広義の文化を、旅行目的のひとつとして訴求していきたいと考えておりますが、共に民主主義と自由を信条とする日本と台湾が、異なる文化を持ちながらその違いを理解し、認めあい、お互いの文化を楽しめる成熟した関係が成立していることは、今後日本が諸外国との関係構築を図る上での大きなモデルとなるものと考えます。

海外との関係はささいな出来事から大きく傷ついてしまうものであり、簡単に傷つかない、あるいは傷ついた場合にも修復可能な関係を作っておくことは大変難しく、根気と手間を要する作業であります。この地道な仕事を続けてこられた亜東親善協会の皆様に、改めて敬意を表しますとともに、私自身も観光・文化の交流を通じて、義に厚く人情あふれる台湾の方々との交流、相互の信頼感醸成に関して、わずかなりともお役に立てればと思います。

「亜東親善協会」が台湾からの留学生と懇談会開催

「一般社団法人 亜東親善協会」（以下、亜東親善協会）

は一月五日、東京地区で学ぶ台湾人留学生組織「中華民国留日東京同学会」のメンバー三五名との懇談会を東京・永田町にある参議院議員会館の会議室で開いた。懇談会では留学生たちから、先ごろ日本で安全保障関連法案（以下、安保法案）が可決されたことに関連し、これに対する世論、国際関係に及ぼす影響、安全保障に関する台日米の立場と見解、兩岸関係、台湾に対する日本の見方をはじめ、日本人と結婚した中華民国国籍を持つ配偶者に対



する日本の戸籍における国籍記載の問題など、様々な質問や意見が挙がった。

亜東親善協会の大江康弘・会長は、安保法案に関連する質問の中で、「民意」と「法治国家」の定義について説明すると共に、民主主義国家における法律制定の難しさを強調した。

懇談会は、大江会長をはじめ、同協会の会員議員である鈴木克昌・衆議院議員、岸信夫・衆議院議員、鶴保庸介・参議院議員らがあいさつし、各議員はいずれも、現在台日関係は良好であり、今後も双方の関係をさらに強化していきたいとの考えを示した。懇談会には台北駐日経済文化代表処および公益財団法人交流協会の関係者もそれぞれ出席し、留学生たちの質問に答えた。

懇談会に続き、留学生たちは国会議事堂内を見学した。参加者のほとんどが初めて訪れた場所であったことから、衛視の説明を受けながら、積極的に質問するなど、興味深く熱心に聞き入っていた。見学後、留学生たちは「実際に訪れ歴史の重みを感じた。すばらしかった」といった感想を述べた。

二〇一五年一月六日

《台湾週報より転載 文責 片瀬》

最近の日台関係と台湾情勢

I. 台湾概況

II. 最近の日台関係

1. 台湾に関する我が国の立場
2. 良好な民意
3. 人的往来・経済関係



日本と台湾との架け橋
公益財団法人
交流協会
Japan-Taiwan Exchange Association (JTEA)

(公財)交流協会台北事務所
2015年10月

I 台湾概況

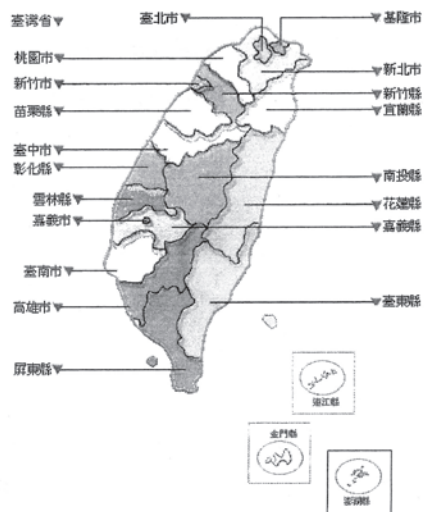
【基本情報】

面積	36,191平方km ※九州は42,000平方km
人口(2015年7月)	2,346万人
民族	漢民族(98%)、16の原住民族系民族(2%)
主要言語	中国語、台湾語、客家語、その他原住民族の言語
宗教	仏教、道教、キリスト教
GDP(2014年)	5,295.87億ドル(対前年比3.77%増)
一人当たりGDP(2014年)	22,632ドル
主要産業	電気・電子、鉄鋼金属、繊維、精密機械
主な台湾企業	鴻海精密工業(HONHAI Precision Industry)、宏達国際電子(HTC)、廣達電腦(QUANTA)、宏碁電腦(ACER)、華碩電腦(ASUS)、台湾積体電路製造(TSMC)、聯華電子(UMC)、捷安特自転車(GIANT)

【政治体制】

与党	中国国民党(KMT) ※最大野党は民主進歩党(民進党)
議会制度	一院制(立法委員定数113、任期4年)
主な指導者	
総統	馬英九(ば・えいきゅう: MA, Ying-jeou) - 総統は直接選挙にて選出(任期4年: 再選1回まで)
副総統	呉敦義(ご・とんぎ: WU, Den-yih)
行政院長	毛治國(もう・ちごく: MAO, Chi-kuo) - 行政院長は総統が任命
外交部長	林永樂(りん・えいらく: LIN, Yung-lo David)
立法院長	王金平(おう・きんぺい: WANG, Jin-pyng)

【行政区画】



Ⅱ 最近の日台関係

1. 台湾に関する我が国の立場

【基本的立場】

- 台湾との関係に関する我が国の基本的立場は、1972年の日中共同声明にあるとおりであり、台湾との関係を非政府間の実務関係として維持してきている。

(注) 日台間の民間ベースの実務処理機構として、財団法人交流協会(日本側)、亜東関係協会(台湾側)を設置。

日本政府は、交流協会に対し、「わが国国内法令の範囲内で、できる限りの支持と協力を与える方針」。(1972年12月26日、二階堂官房長官談話)

- 台湾は我が国にとって緊密な経済関係と人的往来を有し、心と心のつながった極めて重要なパートナーであり、日本は台湾との関係を重視。

【台湾の法的地位】

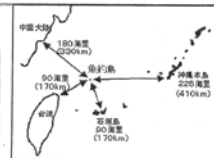
- 我が国は、サン・フランシスコ平和条約第二条により、「台湾及び澎湖諸島に対するすべての権利、権原及び請求権」を放棄しているため、台湾の法的地位に関して独自の認定を行う立場にはない。

【兩岸関係】

- 我が国としては、台湾を巡る問題が、兩岸当事者間の直接の対話により平和的に解決されることを期待。こうした観点から、中台間の対話は歓迎すべきもの。今後とも状況の推移を注視。

【尖閣諸島】

- 尖閣諸島が日本固有の領土であることは、歴史的にも国際法上も疑いなく、現に我が国はこれを有効に支配している。したがって、尖閣諸島をめぐる中国を含む他の国との間で解決すべき領有権の問題はそもそも存在していない。



2

2. 良好な民意

【世論調査】

●台湾の人々の対日意識

※交流協会実施(2013年1月)

最も好きな国は日本→43%
(群を抜いて第1位。2位の中国、米国、星は各7%)

日本に親しみを感じる→65%

●日本人の対台意識

※駐台北経済文化代表処実施(2011年5月)

台湾を身近に感じる→67%

現在の日台関係は良好→91%

台湾を信頼している→84%

【台湾における日本語学習者】

※国際交流基金・交流協会実施「日本語教育機関調査」(2012年度)

233, 417人 世界第5位

八田與一氏と烏山頭ダム

✓八田與一氏は、日本統治時代の1930年に台湾南部のダム建設を行った日本人技師。農業水利事業に貢献。

✓現在も命日に烏山頭ダムで慰霊祭を実施。台湾の教科書にも載っており、人々に親しまれている。

✓2011年5月に現地に八田與一記念公園が開園。馬英九総統が開園式に出席。

✓2012年4月に森喜朗元総理が同公園に桜を植樹。

✓2012年5月に現地で没後70年追悼会が開催。蕭万長副総統が総統の代理として出席。

✓2013年9月1日 八田夫人像も記念公園に設立。

✓2014年3月 映画「KANO」にも八田氏やダムが登場(2015年1月、日本公開)

なお、八田與一氏以外にも、2013年10月15日台中の水利(白冷圳)に貢献した磯田謙雄氏の銅像が建立された。



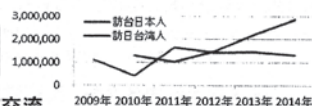
3

3. 人的往来・経済関係

【人的往来・交流】2014年は双方で440万人を突破。過去最高を更新。航空路線も拡大傾向。

●人的往来

日本人訪台者: 約163万人(2014年、前年比15%増)(交通部観光局出典)
台湾人訪日者: 約283万人(2014年、前年比28%増)(日本政府観光局(JNTO)出典)



●日台航空路線

日台間の定期旅客便: 501便/週(2015年5月末実績)
日台間の定期航空路線: 21路線(2015年5月末実績)

●学生・都市交流

留学生往来

台→日留学生数: 6,231人(2014年5月)
日→台留学生数: 3,097人(2012年)
※在日外国人留学生数 第1位: 中国(94,399人)、第2位: ベトナム(26,439人)、第3位: 韓国(15,777人)、第4位: ネパール(10,448人)、第5位: 台湾(6,231人)
※2009年から日台間でワーキング・ホリデー制度が開始、2014年から年間査証発給枠が2000件から5000件に拡大。
姉妹(友好)交流都市等提携数: 35組(2015年1月1日)

●長期滞在者

在台邦人: 17,598人(2015年5月)
在台台湾人: 40,197人(2014年12月)

【経済関係】貿易・投資ともに密接な関係。最近では経済分野を中心に協力文書も盛んに署名。

貿易額 616.1億ドル(台湾財政部)(台湾から見て第3位)(日本から見て第4位※貿易統計)(2014年)
※うち日本からの輸入417.0億ドル/日本への輸出199.1億ドル

台湾への直接投資 5.5億ドル(台湾から見て第3位)/488件(台湾から見て第3位)
日本への直接投資 6.8億ドル(台湾から見て第2位)/50件(台湾から見て第4位)(共に2014年)

在台日系企業数: 1,112社(2014年度)
※台北市工商会等の会員企業は596社(2014年末)

協力文書: 経済分野を中心に計64の文書に署名
※取決め、覚書、協議書、書簡等すべての文書の合計
※2011年9月の投資取決めから現在までで20の文書に署名

4

III 台湾情勢

1. 内政

(1)2014年統一地方選挙後の各県・市の状況

●2014年11月29日「九合一」: 全地方首長等を一斉改選する史上最大規模の地方選挙が投票開票
(※)直轄市長、県市長、議員をはじめ9種の選挙を同時開催。全1万1130ポスト改選。

国民党が歴史的な大敗、民進党は大勝

→ 2014年12月 馬總統が国民党主席を辞任
15年 1月 朱立倫・新北市長が同党主席就任
選挙後の全22県市長ポストは...

国民党 : ▲9減(15→6) 台北市、台中市等で敗北
民進党 : △7増(6→13) 台中市、桃園市等で勝利
※台北市では初の無党派(民進党支援)市長誕生

●選挙後の各県・市の状況

(現在の地方首長の所属政党)※計22の市長・県長の内訳

国民党 : 6 (←15)

直轄市は新北市のみ(1市/全6市)

民進党 : 13 (← 6)

直轄市は台中市、台南市、高雄市、桃園市(4市/全6市)

※桃園県は14年12月末に市に昇格

無党派 : 3 (← 1)

台北市、花蓮県、金門県



【選挙前】

※ : 15 : 6 無党派: 1

【選挙後】

(※) 赤色下線部は政権交代した県市

5

事務所だより

*陣内伯壹書道個展のおしらせ

私、陣内伯壹は一九四九年に台湾台北に生まれ、就学前から父に書道や漢文の基礎教育を受けました。三〇数年前日本伝統文化を探究するため来日し、以後書道家として活動とともに薛字師として日本伝統文化の仕事に従事いたしました。今回台湾文化センターで開催される個展では、私が台湾そして日本で学び得た書道および日本伝統文化の知識・技術を作品として表現いたしました。この個展が台湾や日本のように多様性に富む東アジアの文化を表現し東アジアの文化交流に役立つことを願います。ぜひ個展にてご覧いただければ幸いです。

会期…平成二十七年十一月二十五日より十二月十日まで

会場…台北駐日経済文化代表処台湾文化センター

港区虎の門一―十二 虎ノ門ビル 二階

電話〇三(六二〇六)六一八〇

ぜひ個展にてご覧いただければ幸いです。

*台湾訪問の実施

本年度事業計画に基づき次の通り実施された。

出発…十月二十二日C I 二二三便台北着一〇時

二泊三日表敬訪問・立法院・交流協会・その他行政機関

*定例理事会の開催

九月 八日(火) 砂防会館

十一月十一日(火) 砂防会館

十二月 四日(金) 顧問・理事・監事研修会

*事務所移転のお知らせ

ご案内の通り旧事務所(砂防会館本館四階)ビル建替えのため別館二階に移転することになりました。

*新入会員のご紹介

林三統、長尾邦央、劉静慧、岡本龍郎、菊地大自、谷野真名子、富田家彰、藤川隆史、(夏季号の新会員)ご紹介でお名前前に誤りがご在居しました、お詫び方、訂正申し上げます
誤・長勢達也・正・長瀬達也 誤・菊池三誠・正・菊地三誠

平成二十七年十月三十一日まで



季刊 亜東 (アジアの架け橋) 平成27年 秋季号 (No.55)

発行日 : 平成27年11月15日

発行所 : 一般社団法人亜東親善協会

発行人 : 大江康弘

所在地 : 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5 砂防会館4階

Tel : 03-3261-6405 Fax : 03-3556-5770

H P : atousinzen@nifty.com

印刷 : ヨシダ印刷株式会社

台湾の魅力を、あなたにも。 チャイナ エアライン



チャイナ エアラインで、台湾の旅へ。

台北101や日月潭、阿里山など、見どころにあふれた台湾。

日本から飛ぶなら、チャイナ エアラインで。行き届いたサービス、快適なひととき…。

台湾を訪れるあなたを、心を込めたおもてなしで歓迎いたします。